


<p>山本 正信</p>	<p>柔道で活躍 全日本柔道選手権連覇を成し遂げる</p>
<p>43回生 大正13年年3月卒</p>  <p>「ありし日の山本正信九段。 (大正13年至43回生)</p> <p>(山本 正信)</p>	<p>家業の精米所の後嫁ぎとして誕生し、県商に入学、在学中は気が弱くいつも下級生と喧嘩して負けていたとのこと。</p> <p>県商の柔道部に入部、「稽古の虫」といわれるくらいに柔道の練習に励んだ。</p> <p>放課後には須磨内田柔道館や小野の青年会などにも出向き練習に精を出した。</p> <p>毎日自宅から学校までの山路約1キロの徒歩での往行で下半身脛腰が鍛えられ</p> <p>在学中、同志社高商(現同大)主催「全国中学校柔道大会」で優勝し、県商時代に2段を取得して卒業。卒業後家業の精米所を手伝う傍ら警察の柔道講師となった。</p> <p>昭和8年頃、警察の方が忙しくなったので家業の仕事を辞めて柔道の指導にすべての時間を費やし、山下汽船や丸紅或いは神港中学校などでも柔道の指導に当たった。</p> <p>全国の柔道ファンの頭にたたきつけられたのは昭和10年、11年と2年間連続して全日本柔道選手権に優勝したこと。</p> <p>又、昭和9年5月宮中済寧館で開かれた「皇太子誕生記念大会」に出場したことは大変名誉なことであった。</p> <p>現役時代は数えきれないほどの優勝経験を持ち、現役を退いた後も後進の育成に当たり戦前の柔道界に大きな功績を残した。</p> <p style="text-align: right;">昭和59年 没</p>